小鳥の園芸師

訳者略歴

一九三〇年生
一九五三年京都大学文学部卒
フランス文学専攻
京都大学教授
主要著書
「スカトロジア」
「幸福へのパスポート」
「ごっこ」
「コーマルタン界隈」
「生命の酒樽」他
主要訳書
ゾラ「ナナ」
ルソー「告白」（共訳）他

小鳥の園芸師

定価二四〇〇円

一九八二年一一月二〇日印刷
一九八二年一二月一日発行

訳者 © 山田稔
発行者 中森季雄
印刷者 青木勇
発行所 株式会社 白水社
東京都千代田区神田小川町三の二四
電話 営業部〇三（二九一）七八一一
編集部〇三（二九一）七八二一
振替東京九―三三二八
郵便番号一〇一

精興社印刷・黒岩製本

（分）0097（製）70650（出）6911

小鳥の園芸師

Tony Duvert
Les petits métiers
© fata morgana 1978
Croquis © Anne-Marie Soulcié
Copyright in Japan by Librairie Hakusuisha

小鳥の園芸師

トニー・デュヴェール
山田稔訳

白水社

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

ジャン＝ピエール・ティゾンに

小鳥の園芸師　目次

洟浚え　11
尻拭い　13
時計読み　17
硝子割り　21
皮剝ぎ　23
もの書き　27
小鳥の園芸師　29
さわり屋　31

跳びのり屋 33
見張り 37
裁き屋 39
検閲屋 45
身代り 49
渡し 57
思索屋 61
雪だるま 65
彫り師 71
首斬人 75
夢の肖像画家 79

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

楽師　85
医者　89
役立たず　97
引き止め屋　103
訳者あとがき　107

洟浚え

彼は学校の入口に鼻ポンプを据え付け、子供の一人びとりを名前で覚えていた。

おじいさんが話してくれたところによると、昔は洟浚(はなさら)えはポンプなど持っていなかったそうだ。そのかわりに藺草の管を用いて、それでもって口で洟を吸っていた。そして少しも呑みこまずに鼻の穴を底まで浚えるのに、彼は絶妙の技倆を示したので、その掃除の気持よさをながく味わえるように、悪童どもは

洟の棒を一本でなく二本にしていたそうな。
ポンプを用いたのでは興冷めである。ぼくは思い出すが、そのためにクラスの中には洟浚えの存在さえ知らぬ者が出てきた。彼らは手洟をかみ、歩道や学校用の上っ張りを汚したものだ。

尻拭い

尻拭いは小さく切った古新聞紙と、化粧水で香りをつけた上等のちり紙との入った小箱を背負っていた。夜明けとともに彼は村の巡回を開始する。その歌に誰もが目を覚まし、急いで彼を招くのだった。彼の仕事は卑しいものなので、家の中まで入ることは許されなかった。彼の手を必要とする場合は、表の敷居のところで尻を突出しておくのである。戸口にはまた、一杯になった溲瓶(しびん)も置かれた。尻拭いは、手押し車で糞尿を集めて

いたのだ。彼は赤ん坊のウンコと下痢は断った。この場合、それでも拭いてもらいたければ、一スウ払わなければならなかった。

尻拭いは集めたものを糞屋に売った。ところが糞屋は、金持のくせに（裕福な百姓で、しばしば村長になった）、破廉恥にも夜中に村はずれで、仕事をするのだった。彼は糞尿に水とわらくずを加えてこねまわす。そしてしばらく放置しておいてから村民に売った。村民は、畑や窓辺の鉢植えの花の肥料にそれを利用するのだった。

糞屋は、肥料に加える水とわらの量を極端にふやすのがつねであった。儲けるためである。この利益は当然なものと考えら

れていて、そのために、糞屋の職は競売された。ところが尻拭いの方は糞屋や尻に仕えるしがない存在にすぎず、世間から軽蔑されていた。とはいえ、尻拭いなくしては糞もない。しかし下積みの人間は、自分を守ったり、自分の値打ちを発揮したりするすべを知らないのである。

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com